

2022年7月24日 午前礼拝
「まことの神」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

Iヨハネ 5:18~21

18 神によって生まれた者はだれも罪を犯さないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守ってくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。

19 私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。

20 しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。

21 子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。

【説教要約】

①神の守り

18 神によって生まれた者はだれも罪を犯さないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守ってくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。

19 私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。

Iヨハネ 5 : 18 - 19

人の最大の不幸は何でしょう。お金がないこと。病を抱え続けること。苦しみが終わらないこと。世の中の不幸は数え切れません。しかし、本当の不幸とはそのようなものではなく、まことの神を知らないことです。

この箇所では、神様の守りについて書かれています。

何から守るかというと、「悪い者」=悪魔からクリスチャンを守ってくださるのです。

「悪い者は彼に触れることができない」の触れるは、ちょっと触るだけではなく、しっかりとつかむという意味です。悪魔が、私たちが二度ととらえることがないように守ってくださるのです。

悪魔にとらわれるとどうなるか。罪に陥ります。この箇所の「罪を犯さない」は、罪に留まり続けられないという意味です。

2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。

3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ』と仰せになりました。」

4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。

5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

創世記 3 : 2 - 5

悪魔はエバに、神様のことばを疑わせ、神様ではなく自分自身を信頼するように仕向けました。そして、神様の命令に逆らわせて、罪を犯させることに成功したのです。

今も、悪魔は活発に活動し、人々に働きかけています。エバに「取ってはならない木の实」こそ大事なことであると思わせたように、本当の幸せがお金や健康、家族、仕事などにあると思わせます。それらは大切なことですが、神様よりも大切になった時、本当の幸福を見失います。

クリスチャンに対しても、攻撃しています。悪魔の攻撃は、体を傷つけてきたり、霊現象を起こすことそのものではなく、神様との関係を壊すことにあります。そして、神様との関係を見失う時、人は罪にとらわれるのです。

しかし幸いなことに、イエス様が守ってくださるので、悪魔がクリスチャンをとらえることはありません。それでクリスチャンは、罪に留まる生活をしないのです。誰も、「罪を犯そう」と思って罪を犯す人はいません。自分で気付かない内に罪を犯すのです。それは、人の心が罪に汚れているからです。

21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会で引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

マタイ 5 : 21-22

例えば怒りについてイエス様は、「たとえ殺人という行為に至っていなくても、心の中で腹を立てたり、人を侮辱した人は、それだけでゲヘナ＝地獄に投げ込まれる」と言います。

27 『姦淫してはならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。

マタイ 5 : 27-28

また婚外交渉についても、「たとえ婚前交渉や不倫をしていなくても、心の中で他人に情欲を抱いたなら、それは婚前交渉や不倫をしたのと同じだ」と言いました。

これを聞いて、厳しいと思いませんか。そうしようとしなくても、怒りは沸いてしまうものですし、情欲も止めようがないものではないかと思えます。しかし、この心の状態こそ、既に罪を犯している状態なのです。

私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。

Iヨハネ 5 : 19

罪を犯さない人はひとりもいません。生まれながら、人は罪に支配されているのです。それは同時に、この世が悪魔に支配されているということです。誰も、自分でこの罪や悪魔の手中から救われることはできません。

しかし、イエス様が来てくださり、私の罪のために死んでくださったので、私は罪から解放されました。自分で変えられない心を変えてくださったからこそ、罪と悪魔の奴隷ではありません。イエス様を信じる人は、すべて罪と悪魔から解放されるのです。

罪の奴隷であることは、本当に悲惨なことです。マタイの例を取るなら、自分でも気づかない内に怒りや情欲の奴隷になって、自分の力で抜け出すことができないのです。罪の奴隷であることは、本当に不幸なことだと思いませんか。

救われた後も、罪を犯します。しかし、罪に留まることはもうありません。イエス様が奴隷から解放してくださったからです。

8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。

9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

Iヨハネ 1 : 8-9

この解放を、この赦しを、もっと伝道していきたいと思います。

②まことの神を知る理解力

19 私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。

20 しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。

Iヨハネ 5 : 19-20

今日の箇所でも繰り返されるのは、「私たちは～知っています」ということばです。それは頭の知識だけでなく、「経験で知り続けている」という意味です。それは、イエス様が、実感として神様を知る理解力を与えて下さったからです。

私たちは元々、悪魔の支配する世に住んでいました。聖書がはっきりとする線引きは、悪魔と罪が支配する世の中と、イエス様によって神様から生まれた者にされたクリスチャンです。この二つの間に、決定的な違いがあるのです。悪魔に属する者から、神に属する者にされたからです。

1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、

2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者と

して今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。

3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、

5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、—あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです—

6 キリスト・イエスにあって、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。

エペソ 2 : 1-6

罪の中に死に、神様のことが分からなかった私たちでした。イエス様が罪から解放してください、神様のことが分かるようにしてくださったのです。この、「神様について経験的に知る」ことこそ、この世にない恵みです。

旧約聖書のヨブ記を読んだことがあるでしょうか。

ヨブと言う、神様を恐れていた人物がいました。普通、自分の罪について悔い改めたり敏感になるところ、ヨブは彼の 10 人の子どもたちのためにも責任を覚え、いけにえをささげるほどの信仰者でした。

彼は翌朝早く、彼らひとりひとりのために、それぞれの全焼のいけにえをささげた。ヨブは、「私の息子たちが、あるいは罪を犯し、心の中で神をのろったかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにしていた。

ヨブ 1 : 5b

神様はヨブについてこのような評価をします。

主はサタンに仰せられた。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいないのだが。」

ヨブ 1 : 8

驚くほどの信仰を持っていたヨブに、ある日悪魔が災害を与えます。一日の内に、彼は子どもたち全員を災害で亡くします。またその地方で最も裕福な人でしたが、全財産としもべも災害で失います。その時ヨブがしたことは、礼拝でした。

20 このとき、ヨブは立ち上がり、その上着を引き裂き、頭をそり、地にひれ伏して礼拝し、

21 そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」

22 ヨブはこのようになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。

ヨブ 1:20-22

ヨブの災難はこれで終わらず、今度は全身を悪性の出来物で覆われます。彼の姿を見て、ヨブの妻は言います。

9 すると彼の妻が彼に言った。「それでもなお、あなたは自分の誠実を堅く保つのですか。神をのろって死になさい。」

10 しかし、彼は彼女に言った。「あなたは愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをも受けなければならないではないか。」ヨブはこのようになって、罪を犯すようなことを口にしなかった。

ヨブ 2 : 9-10

ヨブの妻が、先に神様への信頼を失います。それでもヨブは信仰を失いませんでした。

ヨブ記は全部で 42 章あるのですが、3-37 章は彼を見舞いに来た友人たちとの会話です。友人たちがヨブを見舞いに来ますが、7 日間ヨブは口を開きません。8 日目にヨブは心の苦しみを絞り出すように語ります。

それを聞いて、友人たちはヨブに反論してしまうのです。「苦しみは、罪の結果だから、自分の罪を悔い改めなさい」ということだったり、「善人に災いは下らないから、あなたはどこかで悪を行ったのだ」とか、「本当に悪を行っていないなら、神に訴えれば良い」とか。

もっと複雑な内容ですが、友人たちのそのような反応を見て、徐々にヨブは「私は悪くない。神が間違っているのだ」という方向に向かいます。逃げ場のない苦しみに友人が追い打ちをかけたので、限界だったのです。

この、ヨブの苦しみに解決を与えたのは何だったと思いますか。友人が変わることや、本当に分かってくれる人が現れたのではありません。神様が直接ヨブに語ったのです。しかも、慰めの言葉や、何のために災害があったのかの説明は一切ありません。ただ、神様が世界を設計し、造り、人知の及ばない創造をされたことだけが語られます。

しかし、ヨブにはそれで十分だったのです。

1 ヨブは主に答えて言った。

2 あなたには、すべてができること、あなたはどんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。

3 知識もなく、摂理をおおい隠す者は、だれか。まことに、私は、自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。

ヨブ 42 : 1-3

ヨブは、このことで、なんと悔い改めるのです。何一つ災害の説明もなく、慰めもないにも関わらず。それは、神を知ったからです。

5 私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。

6 それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔いています。

ヨブ 42 : 5-6

この世で、ヨブほどの不幸者はいないのではないかと、思います。誰よりも信仰深く、正し

いことをしていたのに、一日で家族も財産も失い、自分の健康も失った。妻は「神をのろって死になさい」と言い、友人たちは「あなたに罪があるはずだ」と言って自分を責める。

しかし神様がおられることを経験で知った時、彼の中で解決が起こりました。神を経験することは、悔い改めと不思議な平安をもたらします。

ちょうど、このメッセージを作っている最中に、一つの奇跡を体験しました。私には、大変親しかった友人がいました。しかし去年、私たちの間には大きな亀裂が入り、しばらく連絡も取れない状態でした。私は相手に苦い思いがあり、きっと相手も自分に苦い思いを持ち続けているだろうと思っていました。毎日考え込んでしまう程に思い悩んでいました。

私は、どっちが正しかったとか、どう傷つけられたかとかよりも、一緒に神様を喜んでいて関係が壊れてしまったことに深い失望を覚えていました。もう一度立て直したいけれど、それには多くの時間と労力があるだろうと思いました。

しかし今回、ひょんなことから分かったのは、相手がすでにその亀裂から解放されていたということでした。「主が赦してくださったことを思い出し、私のことや、自分自身のことをすでに赦した」と。「また喜んでお交わりをしよう」と言ってくれたのです。

私はその瞬間、心にあった苦い思いや、言いたかった言葉などがすべて吹き飛んでしまいました。私が想像していたことを遥かに超えて、神様がまず相手に解決を与えられたことが分かったからです。同時に、自分の信仰のなさを悔い改めました。

この一瞬の解決は、まさに神様が働かれたことが分かったからです。もし世の解決ならば、時間と痛みを負って少しずつ前に進む努力が必要です。しかし神様は、時間も努力も飛ばして、完璧な解決を与えて下さったのです。

この世の解決は、本当の希望をもたらすものではありません。神様が働かれる、生きておられることが分かる時、私たちは本当の平安の中にいることができます。神様を知る力を、イエス様は与えて下さったのです。

その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。

ヨハネ 17:3

クリスチャンは永遠のいのちをいただいています。それは、死んだ後も生きられるというだけでなく、いのちであるイエス様を持ち続けているということです。父なる神様と、イエス様を経験的に味わい、終わらない関係があること。それこそが永遠のいのちなのです。

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

ヨハネ 14:6

この永遠のいのちであるイエス様を、今週誰かに伝えましょう。

最後に暗証聖句をしましょう。

7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょ。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物として御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

Iヨハネ 4：7-10